

果 樹 の 生 育 概 況

令和 4 年 5 月 2 日現在
福島県農業総合センター果樹研究所

1 気象概況

4 月の平均気温は 12.6℃で、平年より 1.4℃高かった。また、この期間の降水量は 69mm で平年比 85%、日照時間は 230hr で平年比 107%だった（表 1）。

表 1 半旬別気象表（果樹研究所）

月	半旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
4	1	7.9	8.4	-0.5	13.5	14.4	-0.9	3.5	2.8	+0.7	8.5	9.9	85.9	28.2	37.8	74.6
	2	12.4	10.1	+2.3	20.1	16.1	+4.0	5.0	4.2	+0.8	2.5	12.0	20.8	52.1	33.7	154.6
	3	14.6	10.7	+3.9	21.7	16.6	+5.1	8.7	5.3	+3.4	12.5	16.8	74.4	31.3	33.9	92.3
	4	10.8	11.5	-0.7	19.1	17.8	+1.3	3.0	5.7	-2.7	2.0	15.3	13.1	46.3	35.8	129.3
	5	16.2	12.9	+3.3	24.1	19.0	+5.1	8.1	7.2	+0.9	3.5	17.4	20.1	41.1	36.5	112.6
	6	13.6	13.8	-0.2	19.6	20.6	-1.0	7.0	7.2	-0.2	40.0	10.2	392.2	30.6	37.9	80.7
平均・合計		12.6	11.2	+1.4	19.7	17.4	+2.3	5.9	5.4	+0.5	69.0	81.6	84.6	229.6	215.6	106.5

2 土壌の水分状況

4 月 27 日時点の土壌水分（pF 値：果樹研究所ナシほ場：草生・無かん水）は、深さ 20cm で 2.3、深さ 40cm で 2.0、深さ 60cm では 1.8 となっており、適湿状態である。

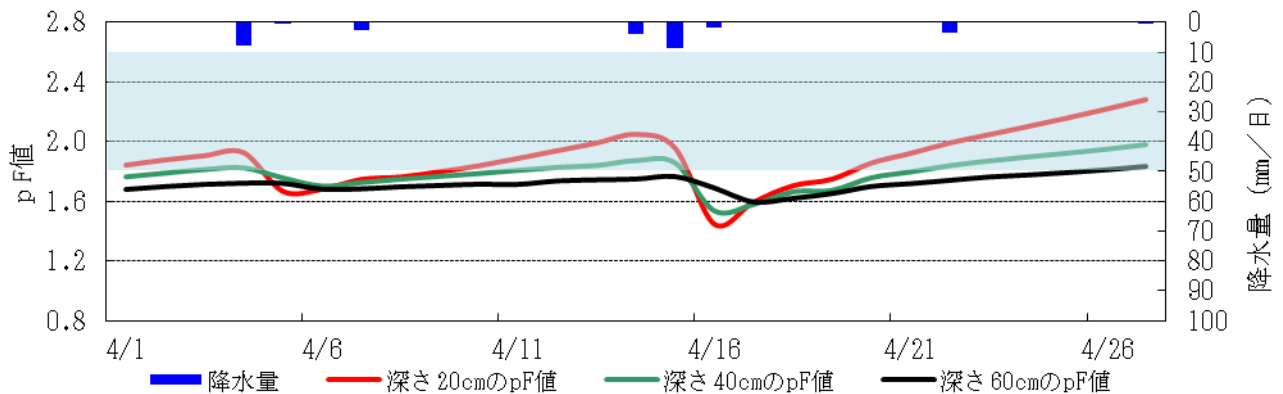


図 1 土壌 pF 値の推移（果樹研究所ナシほ場：草生・無かん水）
図中の網掛け部は、適湿の範囲（pF1.8-2.6）を示す

3 発育状況

ブドウ「巨峰」の展葉は 4 月 22 日で、平年より 2 日早く、昨年より 5 日遅かった（表 2）。

リンゴ「ふじ」の開花盛は 4 月 25 日で、平年より 5 日早く、昨年より 6 日遅かった（表 3）。

オウトウ「佐藤錦」の開花盛は 4 月 22 日で、平年より 3 日早く、昨年より 2 日遅かった。

表2 各樹種（品種）の発芽・展葉状況（観測地点：果樹研究所内、4月28日現在）

樹種	品種	発芽観測日			展葉観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ブドウ	巨峰	4月13日	4月17日	4月7日	4月22日	4月24日	4月17日

注1) 平年は1998～2020年の平均値。

表3 各樹種（品種）の開花状況（観測地点：果樹研究所内、4月28日現在）

樹種	品種	開花始観測日			開花盛観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
リンゴ	つがる	4月21日	4月25日	4月14日	4月25日	4月30日	4月20日
	ふじ	4月22日	4月26日	4月13日	4月25日	4月30日	4月19日
オウトウ	佐藤錦	4月13日	4月18日	4月11日	4月22日	4月25日	4月20日

注1) 平年は、リンゴは1991～2020年、オウトウは1994～2020年の平均値。

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底する。

（各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、下記の技術資料を参照）

「作物別凍霜害及びひょう害技術対策（令和4年3月15日）」

URL <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/500084.pdf>

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため、下草は5cm程度にこまめに刈り込む（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるおそれあり）。また、土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保する（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

なお、降霜被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、摘果は各品目とも結実や生理落果が明らかになるまで遅らせ、結実確保に努める。

(2) モモ

摘らいや摘花を実施しなかった場合や摘らい程度が弱く着果数が多い園地は、予備摘果を実施する。なお、品種により着果量が少ない場合は、仕上げ摘果から作業を行う。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴ黒星病

会津地域研究所における罹病落葉からの子のう胞子の飛散は既に確認されている。本病の重要な防除時期は開花期前後であるため、昨年本病の発生が認められた場合は、落花直後に本病に有効なDMI剤のいずれか（県病虫害防除指針参照）を使用して被害防止に努める。

イ リンゴ褐斑病

例年本病の発生が多い場合には、落花直後にデランフロアブル 2,000倍を使用する。

ウ モモうどんこ病

例年本病（「毛じゃけ」を含む）の発生が多い場合には、落花10日後頃にトリフミン水和剤 1,500倍を使用する。

エ モモせん孔細菌病

本病は発生初期の密度抑制が重要であるため、こまめにほ場を巡回して伝染源である春型枝病斑の早期発見とせん除の徹底に努める。春型枝病斑のせん除の際は、罹病枝を可能な限り基部まで切り戻し（図2）、樹冠上部での発生を見逃さないように注意する。薬剤防除は、落花10日後にクプロシールド1,000倍を使用する。なお、クプロシールドの使用に当たっては、薬害の発生を軽減するため、クレフノン100倍を、必ずバケツ等で一次希釈を十分に行ってから加用し、薬剤が沈殿しないように攪拌しながら散布を行う。また、散布時及び散布後の高温で薬害を生じることがあるので注意する。

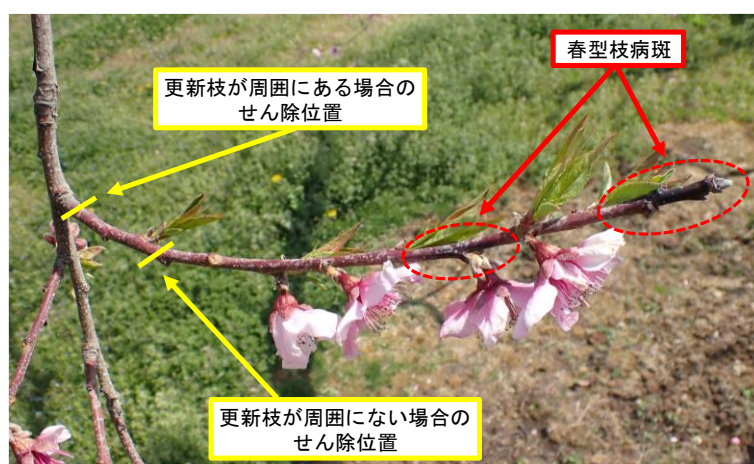


図2 春型枝病斑のせん除位置

オ ナシ黒星病

果そう基部病斑は、鱗片の固着を目安に見つけ次第除去して適切に処分する。また、落花1週間後以降の4回の薬剤防除は、1週間間隔で実施し、病原菌の初期密度の低減を図る。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ越冬世代成虫の発生盛期は4月3半旬頃、第1世代幼虫の防除適期は4月5半旬頃と推定された。ミツバチ等の導入園では巣箱回収後、速やかに防除を行う。

イ リンゴモンハマキ

リンゴモンハマキの越冬世代の発生盛期は気温が2℃高く推移した場合、5月2半旬頃と予測され、第1世代幼虫の防除適期は5月5半旬頃と推定される。リンゴコカクモンハマキもこれに準じるものと考えられる。

ウ カメムシ類

越冬世代成虫による加害は幼果期から始まる場合があるので、特に山沿いの果樹園ではカメムシ類の飛来状況をよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行う。

表4 果樹研究所における防除時期の推定（令和4年4月28日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	4月13日	4月22日	5月9日	5月24日
平年並	4月13日	4月22日	5月13日	5月29日
2℃低い	4月13日	4月22日	5月18日	6月6日

起算日：3月1日（演算方法は三角法）